

「罪人を招く」

生田丘の上キリスト教会 牧師 たかみち 野村天路



私たちは普通、健康であることに価値をおいています。できる限り健康でいたいと思っています。バランスのとれた食事を心がけたり、適度な運動に励んだりします。年を重ねても医者のお世話にはなりたくないと思います。医療費がかかるからということもありますし、単に病気そのものが苦痛だからということもあるでしょう。病に伴う痛みや苦しみ。そういったものはできれば経験したくないことです。

ところが、案外、病人をうらやましく思える状況もあります。子どものときのことを振り返っていただきたいと思います。子どものときに、自分の弟や妹がちょっとしたカゼをひいたとします。すると、親やまわりの大人はカゼをひいた子どもに優しくします。普段は食べることができないゼリーを食べさせてもらえる。カゼをひいたということで特別扱いされる様子を見ると、それがうらやましく思えるということがあったのではないのでしょうか。特別に優しくしてもらわれるなら、カゼくらいひきたいと考えることもあるでしょう。

イエス・キリストは聖書の中で次のように言っておられます。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

私たちは、病よりも健康に価値をおくように、罪人や悪人よりも善人や正しい人に価値をおきます。罪人よりも正しい人に注目します。正しい人を認め、褒め称えます。これが私たちの世の中では普通のことです。

ところが、その普通から外れることもあります。病人を直そうとする医者は、自分の使命ゆえに、丈夫な人ではなく病人を探し求めます。それは病人を癒やし救うためです。それとちょうど同じように、イエス・キリストは、正しい人よりも罪人に注目し、罪人を探し求め、招きます。イエス・キリストには、罪人を滅びから救うという使命があるからです。この使命ゆえに、イエス・キリストは、罪人を招くのです。ですから、イエス・キリストは、「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来た」と言われるのです。これは、医者が病人を癒やすように、イエス・キリストは罪人を救うということです。

私たちは、人間にはなかなかこのことが信じられません。人間の普通の常識では、罪人は嫌われ、さげすまれる存在です。どこかに、あるいは誰かに「招かれる」ような存在であるはずがないと思っているのです。しかし、「イエス・キリストだけは違う」とはっきりと聖書は語っています。イエス・キリストだけは、罪人をさげすんだり、退けることをなさいません。イエス・キリストは、私たちとは違って、正しい人ではなく、罪人を招くお方なのです。

ぜひ、教会にお越しください。聖書を通してイエス・キリストが罪人を招き救うお方であるということを知ることが出来ますように。

チャペルコンサート
11月3日(金)
14:00~16:00
入場無料

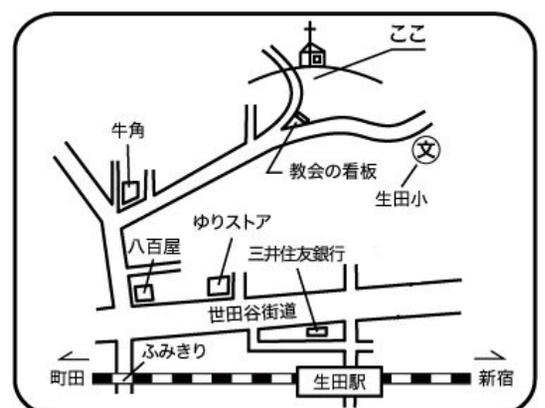
合唱曲で綴る
**イエス・キリスト
の生涯**

よく知られた讃美歌から、バッハなどの教会カンタータまで。イエス・キリストについて歌われた曲を日本語で演奏。

演奏

エバングリウム カンタータ

全員がキリスト者の聖歌隊。特定の団体、教派に属さず、真に聖書を神の言葉と信じる諸教会の協力のもとに運営されている。



教会を訪ねたきっかけは、人によりさまざま

初めての教会は仮住まい中!?

知人に誘われて教会に来た A さんが、初めて出席した礼拝は、ちょうど教会堂の建て替え工事のため、読売ランド駅前の幼稚園舎を借りて礼拝が行われているときでした（1999年10月～2000年7月）。「立派な講壇も音響も何もありませんでした。牧師がいて信徒がいました。子ども達もいました。なぜ幼稚園なのか詳しい経緯はわかりません。けれどもその場所が与えられたことに皆よろこんで感謝しているようでした」と、Aさんは当時を振り返ります。

キリスト教に興味があって

読書家の B さんは、三浦綾子の作品を読んでキリスト教に好感を持ち教会へ行ってみたいと思っていました。知人にクリスチャンがいたこともあり当教会を訪れます。「教会は初めてなのにオルガンの演奏がとても心地よく、聖歌隊の歌う讃美歌も歌詞の意味は分からないのにとっても感動的だったのは何故でしょう」と礼拝後に牧師に話した時の「帰るべきところに帰ってきたからではありませんか」との応えが今も忘れられないといいます。

子どもの集会に来て

小学生の頃、教会学校へ通い、お姉さまは高校生で信仰を持ち、ご本人もキリスト教系の大学に進学した C さんでしたが学門としてキリスト教に触れても、生活は神様や教会とはだんだん離れて行きました。結婚後「安心して子どもを連れて行ける所」としてお姉さまが勧めたのが、ホサナ・エンゼルクラブ(下段に案内)でした。お姉さまはことあるごとに「あなたのために祈っているよ」と言っておられたそうです。ベビーカーを押して教会への急坂を登るのに苦戦しながらも、月二回の活動を通して教会は C さんの大切な場所になっていきました。信仰を持って洗礼を受けるのを決めるまでの経緯を久しぶりにあった友人に話したところ、思いがけず「それじゃ、ずっと神様に愛されてきたのね」と言われ改めてそれを実感したということです。

悩みの中で

「私、初めて教会に来て信仰を持つまで8年もかかったのよ。今でも理屈屋で何でも理由が見つからないと納得できない方だから」と笑いながら語る D さんも、初めて教会に足を運んだ時には、強い自責の思い

を持ち悩みの中にありました。

「『初めに、神が天と地を創造した。』という聖書の言葉から、私たちが造られたのが神様なら私たちの責任も神様が担ってくださると思えた」と悩みから解放されたきっかけが聖書の学びであったことを今も語っておられます。

生まれたときから教会に来ていたが…

ご両親ともクリスチャンの E さんは、聖書の話の聞いたり祈ったりすることは当たり前のことでした。それでも「お父さんとお母さんは神様を信じている。君にもそうやって欲しいと思っているが、決めるのは君自身。言われて教会に行くのでもなく、聖書を読むのでもなく自分自身で考えて欲しい」とご両親に言われたのをきっかけに聖書を読んだり話を聞いたりする時に神様がどんなお方でどのようなことを望んでおられるのかを考えるようになったそうです。中・高の学校生活の中で神様の助けや備えがあることに気付かされ、自分の弱さ、罪に気付かされ、神様の大きな愛とイエス様の救いを確信します。毎日の何でもないような事も神様から見ると大きな計画の中の一つなのだ。

でも、みんな聖書を通して神様に会います。



(7・8月を除く)

毎月第3土曜日 14:00～15:30

小学生を対象としたプログラムです。

わかりやすい聖書のお話、体を使った賛美、毎回変わるメインプログラムには、工作、スタンプラリー、お菓子作り、ゲーム大会など、楽しいものばかりです。

保護者の方もご一緒に見学していただけますのでお気軽にご参加ください。



毎月第1・3火曜日 10:30～12:00

0才から未就園児と母親のための集いです。

聖書のお話と賛美歌、おやつなど。

必ず電話でお問い合わせ下さい。

見学は大歓迎です。

定期集会のご案内

◇ 礼拝・日曜日 11:00～12:30

万物の創造者である神と一緒に礼拝します。祈り、賛美、聖書からの説教などが中心です。

◇ 教会学校・日曜日 10:00～10:40

礼拝前の40分間、大人から子どもまで年齢に合わせたグループで聖書を学びます。

◇ 祈祷会・水曜日 19:30～21:00

週の半ばに、クリスチャンが共に集い聖書を学び、共に祈ります。

ほかにも、女性のグループによる聖書の学びの集いがあります。